

壁新聞を通した日中学校交流

鳴海 麻衣子

(18-1, 中華人民共和国, 日本語教師, 川崎市立はるひ野小中学校)

今日はお忙しい中ありがとうございます。鳴海と申します。今から旅新聞を通した日中交流と言うタイトルで発表させていただきますが、主な内容としては赴任先の紹介と活動内容を簡単にまず最初に行います。それから要請以外に自分が行ってきた任地以外での活動についても簡単に紹介したいと思っております。また、自分が体験した二年間を基に今後のどのように教育活動をしていこうかということも最後に伝えさせていきたいと思っております。

(あ、すみません。少人数なんですけど、さびしい感じもあるんですが、)今の気持ちでいいんですが中国という言葉聞いて、皆さんがこう、ぱっとこうイメージするキーワードというか言葉って何でしょうか？山手線ゲームのような感じで、こう中国といえば何とか。あの、あんまりすごくいい人になろうとか、すごくきれいでいいことを言おうとか、難しいことを言おうとかではないんですけども。小学校・中学校でいうと例えば、ラーメンとかそういうのが出るんですが、ちょっとよろしいですか？この人数ですが。じゃ、例えば、

s : (中国といえば?) パンダ

t : パンダとか。じゃ、

s : (中国といえば?) 人口が多い

t : 人口が多い。人が多い。

s : (中国といえば?) 餃子事件

t : ああ、餃子事件

s : 食に対する・・・

t : 食品問題に不安がある。

s : (中国といえば?) 環境問題

t : 環境問題。結構だんだん難しいエリアになってきましたね。

s : (中国といえば?) ウーロン茶

t : ウーロン茶。ありがとうございます。

s : (中国といえば?) 私も環境問題。

t : 環境問題。ありがとうございます。

s : (中国といえば?) 北京オリンピック

t : ああ、北京オリンピック。

s : (中国といえば?) 私も北京オリンピックだったんですが、あとは日本語教育が盛んで

すよね。

t : (中国といえど?) 日本語教育。ありがとうございます。

s : (中国といえど?) 私もオリンピック。

t : オリンピック。はい、ありがとうございます。

ちょうど昨日なんですど、あの私の見ていただくとわかりますように、小・中学校在緒の学校で、現在勤務しております。川崎市立はるひ野小学校 5 年生の外国語の授業で、中国のこと話してくれと言われて、最初に同じようなゲームと書いてもらったんですど。殆ど一緒です。環境問題とかは出ないんですど、多くは中華料理、パンダ、チャーハン、ラーメン、あとマージャンです。中にはやっぱりありますど、毒入り餃子ですとかダンボール肉まんですとか、そういう言葉も出てきたりとか、怖いイメージがあるとか、多少やはりマイナスのイメージが最初はありました。いつもやるんですけども、話が終わって最後にどういふ風に、どんなことを知りましたかといふうに書くと、結構みんな子どもたちは変化があるので、毎回その変わりようについて楽しみに授業をしています。すいません、座らせていただきます。

派遣前なんですけども、私は川崎市の西中原中学校という学校にいました。派遣後は今出たんですど、小学校中学校一貫の中学校で英語を教えています。まず、志望動機なんですけども、主に 3 つあります。高校時代から JICA の協力隊に行ってみたいなとぼんやり思っていたこと。あとイギリスに留学したときなんですど、その際に協力隊の OV、オールドボランティアの先輩方が、いろんな国の体験をしてくれまして、ぜひ行ってみたい、私もそんな体験をしてみたいなといふうに思いました。また、川崎市ですと在日のコリアンタウンとかもあるんですけど、最近是中国籍の子どもたちが本当に多くて、英語を教えていると何語でもできるという印象なのか、だいたい英語教員のクラスに外国籍の子どもたちが入ってきます。私は異文化理解教育を自分が勉強してきたということもありますので、担任の先生で中国語を話すことができたらどんなにいいかなと思ひまして中国で希望を出させていただきました。これは二本松の様子です。

赴任先なんですど、地図で見ると 1 つ 1 つの省が小さく見えると思ひますが、皆さんもご存知のとおり 13 億人の人口がいる中国は、日本の約 26 倍の大きさです。その東北部の吉林省にいました。小さく見える吉林省でも、本州とほぼ同じおおきさです。吉林省の端から端まで夜行列車で行けたりするくらい、大変大きなところでした。冬はとても寒くて、この時期ですと「すごく寒いな」と思ふとマイナス 30 くらいですど。冬は平均マイナス 20 くらい。もうマイナス 10 度はあったかい、私の感覚では今日あったかいねといふうな感じになりました。ただ夏はしっかりあがって、30 度くらいまでは上がります。皆さんもご存知のように農業が盛んなので、このあたりは一面稲や、とうもろこしの産地となっています。農業地域は、やはり収入が限られていますので、多くの方は出稼ぎに行きます。北京とか上海ですとか、他の国、特に日本ですとか韓国に行く人も多いです。低所得農民といふことで書いてあるんですど、ニュースなどにはあがってこないかもしれないん

ですが、あまりにお金がなくて、血を献血というか売ったりとか、そういうこともあったりするので、本当に貧富の差というのが激しく大変なエリアだなと思いました。また、中国語を訓練所でやって行ったのですが、56の民族が中国にはいますので私が行ったところは少数民族の民族学校で、実際中国語を校舎の中では半分半分ぐらいしか使いませんでした。後にあとで紹介したいと思います。

歴史的背景ということで、ここが派遣前に私が1番心配していたところなんですけども、旧満州地域ということで、日本人に対してどういう印象があるのだろうということがものすごく心配で、いろいろな歴史の本を読んだり、読みながらもいろんな偏りがあるなと思いつつ現地向かいました。これは中学校なんですけども、中国語で中学（チョンシュエ）というんですが、中学校というのは中高一貫校をあらわしています。逆に、高校だけですと高中（ガオジョン）という呼び方をしています。先ほど触れました民族学校ということなんですが、私の赴任先は朝鮮族第一中学校で、イベントがあるとこのようにチマチョゴリですとか、朝鮮半島の民族衣装を着たりだとか、音楽が奏でられるといった状況でした。ですので、学校の外、町に出ると基本的に、これはレストランのメニューなんですけど、ちょっと見づらいと思うんですが、漢字と下にハングルがあるのが見えるでしょうか。皆さんの印象のように中華料理を食べているんじゃないか、中華料理もあるんですけども、冷麺を食べたりとかキムチをみんな朝鮮族のお母さんたちは漬けていて、今日キムチ漬けるから漬けにおいでといったようなやりとりがあります。

ここから簡単に日々の活動について説明していきたいと思うんですけど、写真を見ていただくと小さいんですけど、各クラスにプロジェクタ、このようにスクリーンがあります。すごくまわりは貧しいところなんですけど、中国は教育に対してお金をすごく使っていますので、教育費がとても高いです。そのために出稼ぎに行かなければいけない環境です。しかし基本的に今こうやって私がやっているようなパワーポイントで授業をすることもできますので、比較的環境としては恵まれた状況だったと思います。授業プラス先生方への研修を行ってきました。生徒の様子なんですけども、これはちょうど私が列対抗のゲームみたいなことを日本語ゲームで、お正月の料理は？とか言うとなんか分かった人が手を上げて、その列から座っていくとかやってたんですけども、そのときの様子です。高校生なんですけども、1番前の子は分からないと言っていましたけど、ほぼ全員あげるようなすごく積極的で、あと学校関係者の方がいらっしゃるかなと思うんですが、後ろに（ ）と書いてあるんですが、これは先生ありがとう、お疲れ様ですというメッセージが後ろに貼ってあったり、なんと1年に一度教師の日というのがあってその日はもう、先生いつもありがとうともうすごく感謝されます。学校側もプレゼントくれたりして、大変学校の先生に対する尊敬ということを大切に思っている環境があります。

ここからですが、今年の2月にクロスロードに記事を寄せたので、そのときに使った資料とかぶるんですけど、この子の特集をしました。キン君という子で、中学2年生です。1日の流れということなんですけど、彼は寮に住んでいるので6時起床とあるんですけど、基本

的に 7 時に登校します。朝の 7 時から午前中授業、昼休みや夕食はあるんですが夜の自習というところを見てください。基本的に最終下校は夜の 8 時半を過ぎます。中学 2 年生くらいからそういう生活を始めまして、高校 3 年生まで授業数の多い学校生活を送ります。ですので時間割、これも時間があるとずっと見ていただけると結構驚きがあると思うんですが、これが中学校 2 年生の時間割。まずは曜日が、土曜もいっぱい、あと日曜も午前中まで、月に 1 回か 2 回は日曜日がない日があります。なので日曜日休みになると、みんな本当に嬉しそうにしていますが、授業数が本当に多いということと、よく見ていただくと体育が 1 時間だけ、美術音楽といった情操教育関係が全くない、これは全部試験向けのカリキュラムになっています。

日々の活動をやってきたという話をしたんですけども、滞在しながら要請ではないんですが、自分の近隣の学校を訪問しました。よく探すと日本人の方がいらっしゃったりですとか、退職された方がいらしてたりするので、わざと行って交流させていただいたりしました。また、前に勤めていた学校と壁新聞を交流しようということが決まりましたのでお互いに交換をしました。また、スピーチコンテストが中国ではたくさん開かれます。日本語が盛んな東北は特に多いんですけども、その指導を行ったりですとか、そのうち吉林省、吉林省といっても本当に本州レベルの大きさなんですけど、イベントを企画したりしました。1 人ではできないので、他地域の隊員の協力を得たりですとかして、日本語コンクールという文化祭を 5 校合同で行いました。いくつか送った壁新聞を紹介したいと思います。ただつくって送るだけですと面白くないので、プレゼンテーションといいますか、つくった班のメンバーでこういうことで作りましたと、日本語はたどたどしいんですけど、一生懸命日本語で書いて日本語で発表をしていました。基本的にはグループワークで班ごとの作成でして、テーマは自分たちや国の紹介、何でもいいのでやりましょうということをしなると、はじめて日本に自分たちの作品が届くということで、本当にあんなに厳しい時間割の中、休みを惜しんでやってくれました。校内掲示をしてから日本に送りました。いくつか少し大きい画面で紹介したいと思います。漢字が一緒というのもあるんですけど、いくつか。下に「組員」と書いてあるんですけど、組員というのは変な意味ではなくて、クラスメイトという意味です。クラスメイトだよということで、結構面白い漢字が多いんですけど。これは、中日新聞とあるんですけど、日中ですね、中日新聞、日本人の人は日中と言ひ、そこがまた面白い切り口になるかと思うんですが、見開きの立体、富士山を開くとまた自分たちの写真が飛び出てきたりします。これも、そうですね。ブリクラが村に 1 台あってですね、いつも行列なんですけども、そこで撮ってきてきた写真を貼ってくれたりしていました。あとこれは綿を使ったんですね。綿を使って貼ったりして触り心地がいいのを作ったと言っていました、いろいろな工夫がありました。

また先ほど言ったイベントなんですけど、日本語コンクールでは全部自分たちでやろうということで、高校生が自主的に司会進行したりしていました。その中では、いろいろな出し物があったんですけども、これは私の学校ではなくて他校の生徒さんですが、日本語

紙芝居ですとか、短いんですけども寸劇を行ったり、またはこれはスピーチですね、5 分間スピーチ。またはミュージカル、これは歌って踊ってで、ロミオとジュリエットをやっていました。

ちょっと急ぎ足で申し訳ないんですが、ここまでが任地の活動ですが、休みが意外と長く夏休みや秋休みがありましたので、できる限り任地以外も行こうということで、これは山東省というところがあるんですが、山東省に募金で建てられた学校というところがありましたので、留学生たちと一緒に行ってきました。縄跳びをしたりですとか、一緒に歌を歌ったりですとか、騎馬戦をしたり、一緒に花を植えたりしたんですけども、このエリアは本当に貧しくて男の人という男の人はほとんど出稼ぎに行っていて、いるのは子どもとお母さんとおばあちゃんだけです。お金のない地域ですので、学校自体がありませんでした。ですので学校ができて数年なんですけど、嬉しいですよということでとびきりの笑顔を見せてくれました。その他ちょっと欲張りなんですけども、協力隊の中国 OB が植林活動を積極的に行っていたために、年に数回企画がありまして、内モンゴルの方に植林活動にも行きました。行くんですけども、砂嵐が起きたりですとか、むこうにいるモンゴル系の子どもたちと一緒に遊んだりですとか、モンゴル式の宴会をしたりですとか、いろいろな楽しい思い出があります。砂漠の問題もあるんですけど、砂漠は結局日本に来るカシミアだったりして、根深いいろんな複雑な問題もあったことを感じました。

ここから少しまたすみません、また急ぎ足で。この子の顔を見て中国人、ニーハオというようなイメージはしないかと思うんですけど、本当に広くて、これはシルクロードを旅したときなんですけど、タジキスタンとかの近くのタジク族系の子どもたちです。でも非常にお金の潤いがないので、学校の外です。この子たちは学校に行けない子たち。中にいる子たちは学校に行ける子たち。家にいてもすることがないので、授業をやっているときは外からこうやって眺めています。でも遊びだすととまらないので本当に元気で、この子たちは学校に行けてた方の子たちなんですけど、多少やっぱり着ている服とかが全然違うなというふうに思いました。

このような 2 年間、いろいろなここに載せられないようなたくさんいろんな思い出があったんですが、私が今やってきている、帰ってきて 1 年近く経つので、やってきていることを 4 つばかり載せました。中国写真展ですとか、他の隊員の協力を得たりしてコーナーを作ったり、また壁新聞を送ったりしています。いくつか簡単に、壁新聞の紹介をしたいと思います。これは去年できたばかりなので英語の部屋なんですけど、チベットの旗を飾ったりですとか、あとこれは私がやっている写真展です。旅した先をいろいろ特集しているんですけども、これは中国の写真展のコーナーを作りました。また、これはちょうどマレーシア隊員の方がいらっしゃるんですが、マレーシア隊員のもう一人の方から CD-rom で写真データとやった内容を送っていただいたので、ちょっとマレーの衣装も家庭室の先生のマネキンを借りて、このように飾ってマレーコーナーを作ってみたり、これは数ヶ月たったらまた違う国に変えるというやり方をしています。ちょうど数ヶ月前にやったのが、

総合の時間に調べたことをまとめて中国に送ろうという企画をしました。やっているうちに、中国語を混ぜてみようですとか、なんか最初は先ほどの毒餃子の話とか言っていた子どもたちが、こんなにかわいい、ちょうど国旗と国旗の間に手をつないだハートみたいな、これ男の子たちですね。元気な子たちがハートとかやっていると、本当にかわいらしいなと思いましたが、活動しているうちに中国に対する親近感がどんどん沸いてきたようで、郵便局に行くと言ったら、もう積極的にじゃあ行くということで、国際郵便を出しに一緒に行ってくれました。これ出した直後の絵なんですけども、写真なんですけど、早く返事こないかなということで今子どもたちは次の返事を待っています。ここ中国から壁新聞を送っているんで、今度は質問について答えてもらおうということで待っています。すいません、時間になったので、私が今考えていることを3点簡単に載せたんですけども、ただ私がいなくなってこういう交流が無くなってはいけないなというふうに考えています。ちょうど後任が来たので協力を得ながらやることはできるんですけども、比較的取り組みやすい交流にしたいということがテーマです。私がいなくなってもその学校同士で続くような交流が必要じゃないかなと考えています。二点目なんですけど異文化理解教育ということで、先ほどもシンポジウムの最初でもあったんですけど、あったんですけども、国内、国の中での国際化が本当にますます、進んでいきますので、実際先ほどのように7万人の子供たちが外国のルーツがある子供たちが日本国内にいるということで、実際その子たちと目にするのは各クラスの担任です。自分自身が中国語しかしゃべれない担任した時の苦労を考えると、やはり、アジアにおけるいろんな言葉ですとか、西洋だけに偏らない感覚を持った教員が必要ではないかと思っています。その視点からも異文化体験、西洋だけに偏らない異文化体験のある人材がふえていくことや、協力隊経験のある方が教師になっていただけということで、いろんなネットワークができたりですとか、様々な壁新聞といった交流が進みやすいのではないかなと思っています。

以上です。ありがとうございました。